

2024年07月 現在

Fujitsu Software

Interstage Navigator Server Standard Edition V9a (V9.6.0)

本商品は、エンドユーザの視点で容易な情報活用ができるビジネスインテリジェンス商品です。部門業務の効率化のために、データウェアハウス/データマートを活用する場合に適用する商品です。

本商品は、データウェアハウスからの情報活用に必要な基本機能に加えて、必要なセキュリティ機能や、運用機能を備えています。

- サーバ

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- クライアント

FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

- サーバ

Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)

- クライアント

Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows 10 / Windows 8.1(64-bit) / Windows 8.1

1. 容易な情報の取り出し

(1) 直感的で分かりやすい情報の取り出し

・情報レイアウトパネルにデータ項目や管理ポイント(管理・分析の視点)を貼り付けるだけの簡単な操作で縦横集計表、時系列集計表または明細表形式の情報を取り出すことができます。

・情報レイアウトパネル上で管理ポイントを追加、変更、移動するだけの簡単な操作で、OLAP（ドリリングやスライス&ダイスなど）が可能です。

※OLAP：OnLine Analytical Processing

※ドリリング：大分類から中・小分類に対象を絞り込みながらの分析や、集計した値の元となった明細データを参照する分析

※スライス&ダイス：異なる視点の組み合わせによる試行錯誤的な分析

(2) 高度な分析機能

クロスクエリ機能や、イベントアナライザ機能を利用することで、一度の問い合わせでは結果の得られない複雑な問い合わせをGUI操作で簡単に行えます。

※クロスクエリ機能：問い合わせ結果のデータを他の問い合わせの条件として利用できる機能

※イベントアナライザ機能：時系列に関係のあるデータの組み合わせを抽出する機能

(3) 使い慣れたOAソフトウェアの操作の延長で現行業務に組み込み

取り出した結果をExcelなどのOAソフトウェアと連携ができます。

2. メタ情報による情報活用

(1) データの公開/非公開

エンドユーザに対して必要なデータのみを公開することができます。部門などのグループ単位で、スキーマ、テーブル、および項目の公開/非公開の設定とレコードの公開条件を設定することができます。

(2) 日本語見出しの定義

スキーマ、テーブル、項目などに日本語の見出しを設定することにより、日常の業務用語を用いて帳票作成やデータ分析を行うことができます。

(3) データ構造の定義

・スキーマ、テーブル、データ項目の一覧表から対象を選択するだけの簡単操作でデータベースの公開範囲を、業務や目的ごとのグループに対して設定することができます。

・テーブルの分類(マスタテーブルか実データテーブルか)や、項目の意味(コードかラベルか)更に、結合関係(どの項目とどの項目で結合するのか)などの、データの意味を簡単なマウス操作で設定することができます。

(4) 分析の切り口を自由に設定できる管理ポイント

・管理ポイントをカスタマイズしたり、データ項目の値の意味付け(区分け方法)をして共通の管理ポイントを定義することができます。共通の管理ポイントは一般利用者が情報活用の場面で利用ができます。GUIを使用した簡単な操作で管理ポイントを定義することができます。

・共通の管理ポイントのほかに、個人ごとの管理ポイントが定義できるため、それぞれのユーザの独自の視点でデータを分析することが可能です。

※管理ポイント：「管理ポイント」とは、「～ごと」「～別」といった情報を分析する場合のデータの切り口で、分析や帳票作成のためにデータを検索したり、集計したりする場合の分類キーとなります。管理ポイントを利用することで、データベースのデータを変更することなく、情報活用をすることができます。

3. Webブラウザからの操作(Webコンポーネント)

(1) どこからでも情報活用が可能

Webブラウザの環境さえあれば、Navigatorを利用して情報を活用することができます。

インストールして利用するクライアントも利用できます。

(2) わかりやすいユーザインターフェース

表の出力イメージを確認しながら問い合わせ操作を行うことで、より簡単な情報活用が可能です。

(3) プラグイン不要、メンテナンス不要のWebクライアント

Webクライアントとして利用するPCにはソフトウェアをインストールする必要がないため、利用者のメンテナンス作業の負担を軽減することができます。

※Webコンポーネントとは、Webブラウザから情報活用するための機能を提供するコンポーネントです。

4. レポートの共有、自動更新 (Webコンポーネント)

(1) 多人数で情報共有

問い合わせの雛型（定型の問い合わせ）をWeb上で公開することにより、一般の利用者は、誰でも、簡単にデータウェアハウスの情報を参照することができます。また、参照した情報は、ダウンロードできます。

(2) レポートの管理

フォルダや問い合わせにアクセス権を設定することにより、適切なグループ、ユーザを限定して問い合わせを公開することができます。また、登録した問い合わせ結果の版数を管理し、複数の問い合わせ結果を格納できます。

(3) 既存の定型レポートの条件を変えて最新の情報を入手

利用者は、公開された情報をただ見るだけでなく、データの範囲などの条件を変えて、最新の情報を入手できます。（条件を変えられるレポートを半定型の問い合わせと呼びます）

(4) 自動更新のスケジューリング設定

公開している問い合わせに自動更新のスケジュールを設定することができます。これにより、夜間などに自動更新するように設定しておくことで、常に最新の情報を共有できます。

5. セキュリティ機能

(1) 認証・管理

オペレーティングシステムによるサーバ毎の利用者認証(OS認証)と以下の利用者管理機能が使用できます。

- ・ 接続中の利用者の表示(状態、資格、接続開始時間)
- ・ 利用者の強制切断
- ・ 利用者へのメッセージ通知
- ・ 新規接続の抑止

(2) アクセスログの取得

アクセスログ機能を使用することにより、利用者の問い合わせ操作で発生するデータベースアクセスのアクセス記録および、発行したSQLをログとして出力し、不正使用の監視ができます。また、テーブルや管理ポイントの使用状況の把握、データベースのチューニング等のシステム運用支援にも活用できます。

(3) 利用者の強制切断

・ 一定時間以上サーバにアクセスがない場合に自動的に切断するため、不正利用を減少させることができます。

・管理者が利用中のクライアントを強制的に切断することができます。これによって、異常なアクセスが行なわれている場合、速やかに排除できます。

(4) サーバーWebブラウザ間の暗号化

Webブラウザから操作する場合には、SSLが利用でき、サーバとの通信内容を暗号化して通信できます。

(5) 情報保護

Systemwalker Desktop Keeper、および暗号化ソフトウェアとNavigatorを組み合わせて利用することで、情報漏洩に対するセキュリティを強化できます。例えば、Systemwalker Desktop Keeperと組み合わせて、印刷の抑止や他メディアへのコピーの抑止ができ、暗号化ソフトウェアと組み合わせることで、ウイルスによる情報漏洩などの対策強化を図れます。

6. Webサーバのスケーラビリティ向上

負荷分散装置を利用することで、利用人数に応じて、Webコンポーネントを複数台利用した負荷分散システムを構築できます。サーバを後で追加することで、利用者の増加に応じたシステムの増強ができます。

7. 参照データベースへのアクセス

辞書データベースとは異なるデータベース（参照データベース）から簡単な操作で、情報の取り出しができます。

8. データウェアハウスの運用・管理

以下のコマンドにより、サーバの運用/管理を自動化することができます。

- (1) 辞書の退避・復元コマンド(辞書の保全)
- (2) 辞書の複写(辞書の退避コマンドと復元コマンドを組み合わせた部門間の辞書複写)
- (3) 当月度の設定コマンド(データのバッチ処理と連動した辞書設定)
- (4) 辞書のユーティリティコマンド(テーブル情報、テーブル結合情報、管理ポイントの一括設定)

※辞書：データを参照する時のくくり方や切り口、データの公開制限などの情報活用に必要な定義を、Navigatorでは、辞書と呼んでいます。

9. CSVデータを利用した簡易な情報活用

CSVデータを利用して情報活用でき、DWHを構築することなく低コストで簡単に情報活用システムを構築できます。

また、DWHを構築している場合でも、DWHにない一時的に分析したいデータや、変化の激しいデータなどを、CSVデータとしてそのまま分析できます。

CSVデータをそのまま分析できるため、データベースの設計、作成が不要で、手軽に分析を始められます。

10. アプリケーションプログラムの開発環境

(1) NavigatorAPI

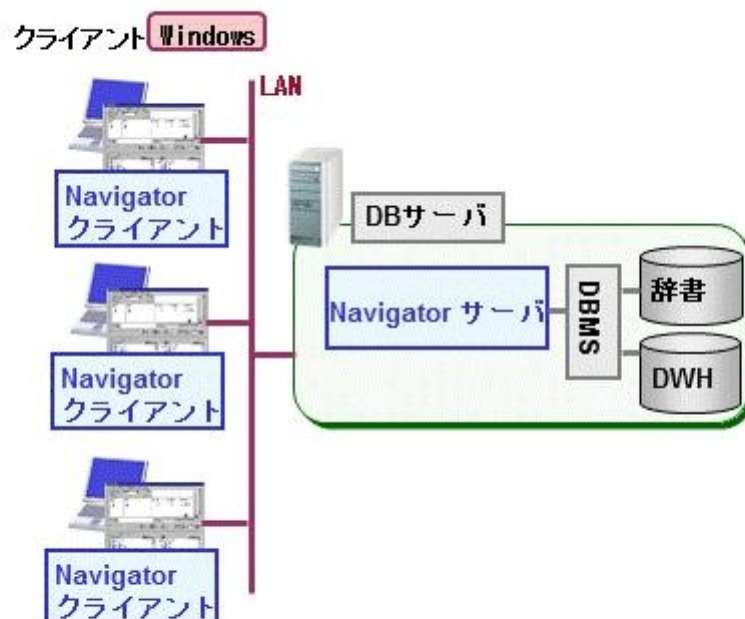
問い合わせカタログ機能を利用したアプリケーション開発が可能となります。

(2) サブレットインターフェース

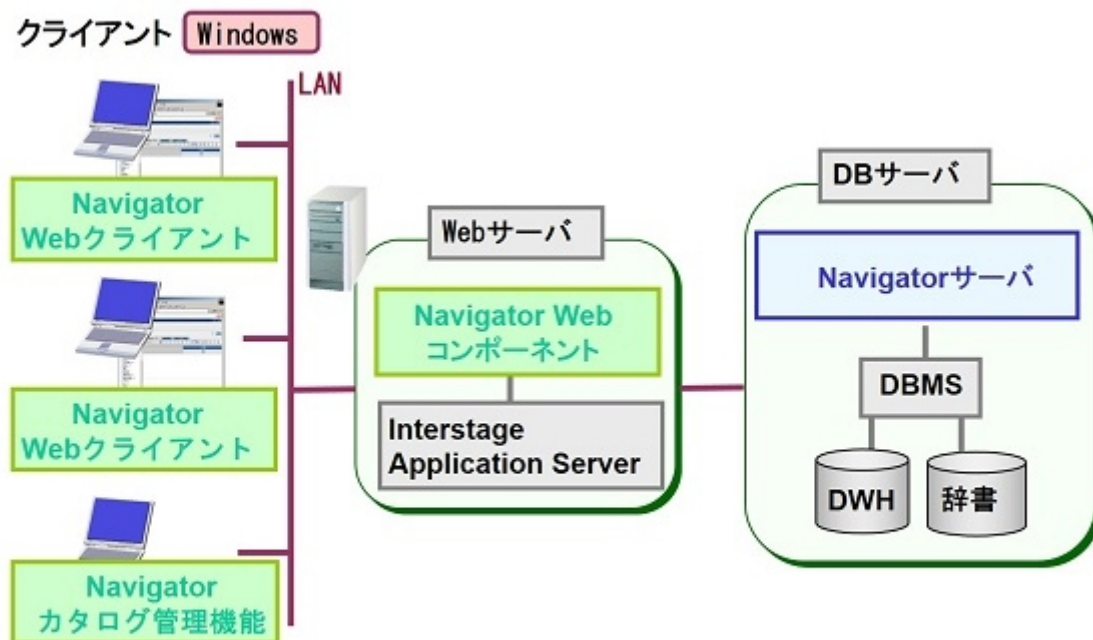
サブレットインターフェースを装備しているため、エンドユーザは、作成した問い合わせ結果をダウンロードして参照できます。また、このインターフェースを利用して、問い合わせ条件を変更して実行する、半定型処理を行うHTMLページを作成できます。HTMLページの作成には、CGI(CommonGateway/Interface)を利用します。

※半定型処理を行うHTMLページは、GUIから簡易に作成することもできます。

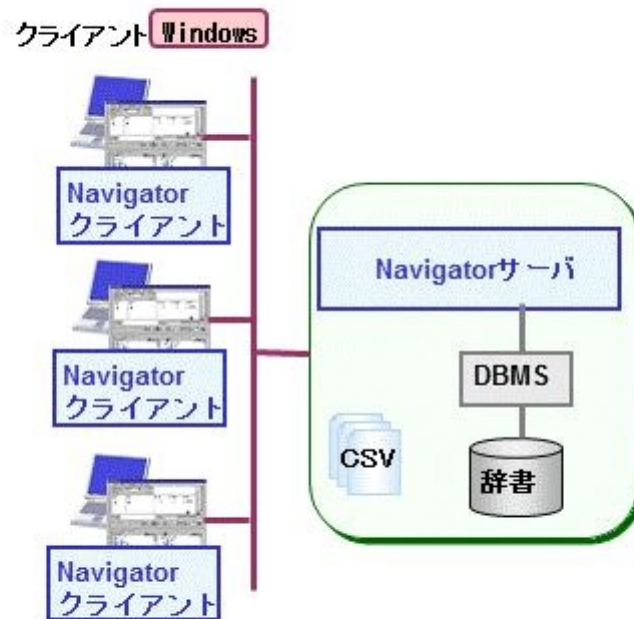
■ Navigator Serverのサーバ構成



■ Webブラウザを利用する場合のサーバ構成 (Webコンポーネント)

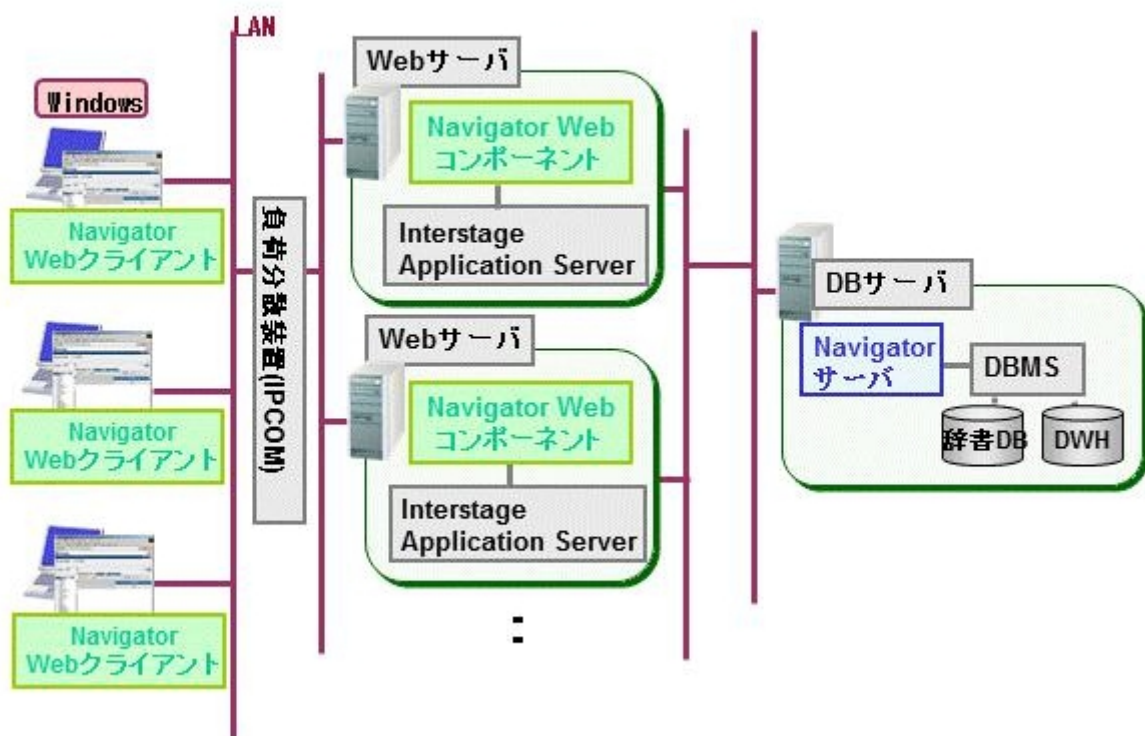


■CSVデータを利用した情報活用を行う場合のサーバ構成



※クライアントは、Webクライアントから利用できます。

■Webコンポーネントを負荷分散する場合



V9.5.0からV9.6.0の機能強化項目は、以下のとおりです。

1. サポートデータベースの拡大

以下のデータベースに対応しました。

- Enterprise Postgres 13
- Enterprise Postgres 14
- Enterprise Postgres 15
- Oracle Database 21c

2. Office製品サポートの拡大

以下のOffice製品に対応しました。

- Microsoft Word 2021
- Microsoft Word for Office LTSC 2021
- Microsoft Excel 2021
- Microsoft Excel for Office LTSC 2021

3. Red Hat Enterprise Linux 9 対応

Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64)に対応しました。

4. Windows 11対応

Windows 11に対応しました。

5. マルチブラウザ対応

以下のブラウザに対応しました。

- Microsoft Edge
- Google Chrome

6. Interstage Application Server V13対応

Webコンポーネント機能において、Interstage Application Server V13に対応しました。

7. Interstage Business Application Server V13対応

Webコンポーネント機能において、Interstage Business Application Server V13に対応しました。

8. Interstage Charset Manager Standard Edition Agent V10対応

Interstage Charset Manager Standard Edition Agent V10に対応しました。

9. カタログ管理機能のWebクライアントへの統合

Javaアプレットで動作するカタログ管理ツールは廃止され、カタログ管理機能はWebクライアントに統合されました。

10. Navigator APIの64ビット対応

Navigator APIについて、64ビット版のアプリケーションとしての動作および64bit版のExcelからの利用をサポートしました。

・ オンラインマニュアル

- Interstage Navigator Server 概説書
- Interstage Navigator Server 新機能ご紹介
- Interstage Navigator Server セットアップガイド Vol.1
- Interstage Navigator Server セットアップガイド Vol.2
- Interstage Navigator Server 管理者ガイド （辞書管理ツール編）
- Interstage Navigator Server 管理者ガイド （カタログ管理機能編）
- Interstage Navigator Server ユーザーズガイド Webクライアント編
- Interstage Navigator Server ユーザーズガイド Windowsクライアント編
- Interstage Navigator Server Visualminerユーザーズガイド
- Interstage Navigator Server コマンドリファレンス
- Interstage Navigator Server メッセージリファレンス
- Interstage Navigator Server QA集
- Interstage Navigator Server トラブルシューティング集
- Interstage Navigator Server 用語集
- Interstage Navigator Server Navigator APIプログラマーズガイド（Visual Basic編）
- Interstage Navigator Server Navigator APIプログラマーズガイド（Visual C++編）
- Interstage Navigator Server Navigator APIサンプルプログラム説明書

【メディア】

- Interstage Navigator Server Standard Edition (64bit) V9a (V9.6.0)

(注) V9.6.0は64bit版メディアパックのみです。

【永続ライセンス】

- Interstage Navigator Server Standard Edition プロセッサライセンス (1年間24時間サポート付)
V9a

本商品のライセンス製品には、初年度の「SupportDesk Standard」がバンドルされています。

【サブスクリプションライセンス／サポート】

- Interstage Navigator Server Standard Edition プロセッサライセンス for Linux (SL&S)

1. メディアパックについて

メディアパックは、媒体（CD-ROM等）のみの提供です。使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。初回購入時には、最低1本のメディアパックとサブスクリプションライセンス／サポートを同時にご購入ください。

本メディアパックの購入でバージョンアップ／レベルアップすることはできません。

バージョンアップ／レベルアップする場合は本メディアパックを購入せず、アップグレード権を行使してメディアを入手してください。

2. プロセッサライセンスについて

プロセッサライセンスは、本商品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおりに必要なライセンスです。

- ・シングルコアプロセッサの場合は、1プロセッサあたり1本の購入が必要です。
- ・マルチコアプロセッサの場合は、コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。

マルチコアプロセッサにおける係数については、「関連URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）」内、「ライセンスについて、くわしく知る」を参照ください。

3. コンポーネントについて

本商品に添付される以下のコンポーネントは、インストールフリーです。

- ・Navigator Webコンポーネント

4. クライアントソフトウェアについて

本商品に添付されるクライアントソフトウェアは複数台のクライアントにインストールできます。

5. ダウングレード使用（旧バージョンまたは旧レベル商品の使用）について

本商品のライセンスでは、ダウングレード使用（本商品の旧バージョンまたは旧レベルを使用）する権利はありません。

対象のバージョンまたはレベルを使用する場合は、対象のバージョンまたはレベルに対応したライセンスをご購入ください。

6. V7.0以降からのバージョンアップ/レベルアップについて

V7.0以降の本商品をお持ちの場合は、有償サポート・サービス「SupportDesk」のサービスの一環として、最新バージョン／レベルを提供いたします。（お客様からのご要求が必要です。）

「SupportDesk」を導入されていない場合は、新バージョン／レベル商品を改めてご購入頂く必要があります（価格の優遇はございません）のでご注意ください。

なお、「SupportDesk」の詳細については、弊社営業/SEにお問合せください。

7. V6.0以前からのバージョンアップについて

V6.0以前の本商品、あるいは Symfoware Navigator をお持ちの場合は、弊社営業/SE にお問い合わせください。

8. サブスクリプションライセンス／サポートでの最新プログラムの提供について

サブスクリプションライセンス／サポート契約 の一環として、最新バージョン／レベルのプログラムを提供いたします。（お客様からのご要求が必要です。）

9. 購入時の特約事項

サブスクリプションライセンス／サポートの契約におけるライセンス使用条件の特約事項について記載します。

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、サブスクリプションライセンス／サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、サブスクリプションライセンス／サポート製品のサービス仕様書記載の「付録3. ライセンス数」のライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) 一部機能の使用について

対象プログラムに含まれる機能の一部であるWebコンポーネントについては、お客様はサブスクリプションライセンス／サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号にかかわらず、日本国内において複数のコンピュータにインストールして使用することができます。

(3) 改造について

サブスクリプションライセンス／サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号改造の内容を下記のとおり変更するものとします。

なお本項により変更された条項以外の条項は、有効に存続するものとします。

「お客様は、本製品について、改造、逆アセンブル、逆コンパイルを伴うリバースエンジニアリングを行うことはできません。ただし、本製品の一部のコンポーネントについては、GNU Lesser General Public License の定める範囲でこの条件は除外するものとしますが、その結果生じた損害およびトラブル等について一切保証しないものとします。該当するコンポーネントについては、対象メディアの[サーバプログラム]に含まれるソフトウェア説明書(readme.txtファイル)を参照してください。」

1. Webサーバを利用する場合

Webブラウザを使用したOLAP(Online Analysis Processing)を行う場合、またはレポートのWeb共有を利用する場合は、以下が必要です。

- Interstage Application Server Enterprise Edition V13
- Interstage Business Application Server Enterprise Edition V13

2. 辞書データベースにEUC/Unicodeを利用する場合

Enterprise PostgresとSymfoware Server (Postgres)、Symfoware Analytics Server以外のEUC/Unicodeデータベースを利用する場合は、以下が必要です。

- Interstage Charset Manager Standard Edition Agent V9/V10

3. Webクライアント／カタログ管理機能でWindows標準文字セット（MS932）の範囲の文字を利用する場合

Webクライアント / カタログ管理機能でWindows標準文字セット（MS932）の範囲の文字を使用する場合には、以下が必要です。

- Interstage Charset Manager Standard Edition Agent V9/V10

4. 情報保護（暗号化、コピー抑止、印刷抑止）を利用する場合

クライアント上で保存データを自動的に暗号化する運用を行う場合は、暗号化製品が必要です。

「FENCE-PRO」などをご利用ください。

コピー抑止、印刷抑止を利用する場合は、以下が必要です。

- Systemwalker Desktop Keeper V14g/V15

5. Navigator API をアプリケーション開発に利用する場合

Navigator API を使用したアプリケーション開発に利用する場合、以下が必要です。

- Microsoft Visual Studio 2015 Professional
- Microsoft Visual Studio 2015 Enterprise
- Microsoft Visual Studio 2017 Professional
- Microsoft Visual Studio 2017 Enterprise
- Microsoft Visual Studio 2019 Professional
- Microsoft Visual Studio 2019 Enterprise

6. OAソフトウェアを利用する場合

(1) 表計算ソフトウェアを利用する場合は、以下が必要です。

- Microsoft Excel 2013 (32bit/64bit)
- Microsoft Excel 2016 (32bit/64bit)
- Microsoft Excel 2019 (32bit/64bit)
- Microsoft Excel 2021 (32bit/64bit)
- Microsoft Excel for Office LTSC 2021 (32bit/64bit)
- Microsoft Excel for Office 365 (32bit/64bit)

(2) 文書編集ソフトウェアを利用する場合は、以下が必要です。

- Microsoft Word 2013 (32bit/64bit)
- Microsoft Word 2016 (32bit/64bit)
- Microsoft Word 2019 (32bit/64bit)

- Microsoft Word 2021 (32bit/64bit)
- Microsoft Word for Office LTSC 2021 (32bit/64bit)
- Microsoft Word for Office 365 (32bit/64bit)

なし

1. Windows デスクトップOS (64-bit)上での動作

本商品のクライアント機能は、以下のOSのWOW64(注)サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

- Windows 8.1(64-bit)
- Windows 10(64-bit)
- Windows 11(64-bit)

(注) : Windows 32-bit On Windows 64-bit

2. 利用可能なデータベース

利用可能なデータベースは以下のとおりです。

- Enterprise Postgres Advanced Edition 11
- Enterprise Postgres Advanced Edition 12
- Enterprise Postgres Advanced Edition 13
- Enterprise Postgres Advanced Edition 14
- Enterprise Postgres Advanced Enterprise Server Edition 14
- Enterprise Postgres Advanced Enterprise Server Edition 15
- Enterprise Postgres Standard Edition 11
- Enterprise Postgres Standard Edition 12
- Enterprise Postgres Standard Edition 13
- Enterprise Postgres Standard Edition 14
- Enterprise Postgres Standard Edition 15
- Enterprise Postgres Community Edition 11
- Enterprise Postgres Community Edition 12
- Enterprise Postgres Community Edition 13
- Enterprise Postgres Community Edition 14
- Enterprise Postgres Community Edition 15
- Symfoware Server Standard Edition V12/V12a
- Symfoware Server Enterprise Edition V12/V12a
- Symfoware Analytics Server Standard Edition V12/V12a
- Oracle Database Enterprise Edition 19c/21c
- Oracle Database Standard Edition 2 19c/21c

※Enterprise Postgresの各バージョンにはSP1以降も含まれます。

なお、データ参照用のみ、以下のデータベースも利用できます。（ただし、Navigatorサーバの辞書用として、上記データベースのいずれかが必要です）

- SAP IQ 16

3. Webクライアントを利用する場合

(1) 対応Webブラウザ

Webクライアントで動作可能なWebブラウザは、以下のとおりです。

- Microsoft Internet Explorer 11
- Microsoft Edge

- ・ Microsoft Edge (IEモード)
- ・ Google Chrome

(2) 辞書管理者向け機能は、Navigator辞書管理ツールを利用してください。Webクライアントを利用する場合は、以下の機能が利用できません。

- ・ エキスパート向け分析機能（イベントアナライザ、スクリプティング）
- ・ 個人の管理ポイント作成
- ・ マルチクロスレポート
- ・ アラーム機能
- ・ データ項目を表側・表頭に指定する集計機能

4. Interstage Navigator Server Enterprise Editionの利用

以下の機能を利用する場合は、Interstage Navigator Server Enterprise Editionをご利用ください。

- ・ データマート生成
- ・ 二次加工分析(一般利用者が問い合わせ結果をデータベース上のテーブルとして保存して利用する機能/一般利用者によるデータ登録機能の実行)
- ・ Navigatorサーバのクラスタ構成/負荷分散構成

5. Unicodeを利用する場合

Unicodeの使える文字は、Windows標準文字セット（Shift-JIS）の範囲です。

また、Unicodeデータソースは、以下の場合に利用可能です。

- ・ Enterprise Postgres
- ・ Symfoware Server
- ・ Symfoware Analytics Server
- ・ Oracle Database
- ・ CSVファイル

6. CSVファイルを利用する場合

Unicodeを利用する場合は、BOM（Byte Order Mark）なしのUTF-8の形式で、利用してください。

7. データウェアハウスのテーブル定義・更新

データウェアハウスのテーブルを定義・更新する機能はありません。

8. IPv6ネットワーク環境で利用する場合

IPv6ネットワーク環境で利用可能なOSは、以下のとおりです。

なお、本製品では、IPv6/IPv4デュアルスタックをサポートしています。

(1) NavigatorサーバをIPv6ネットワーク環境で運用する場合

対応する全てのサーバOS上で利用可能です。

(2) WebコンポーネントをIPv6ネットワーク環境で運用する場合

対応する全てのサーバOS上で利用可能です。

(3) クライアントをIPv6ネットワーク環境で運用する場合

対応する全てのクライアントOS上で利用可能です。

9. Navigator Webコンポーネントの負荷分散システムを利用する場合

〔接続維持方式〕

Navigator Webクライアントからの接続中には、常に接続先サーバが同じサーバになるように、IPCOMには、以下の機能が必要です。

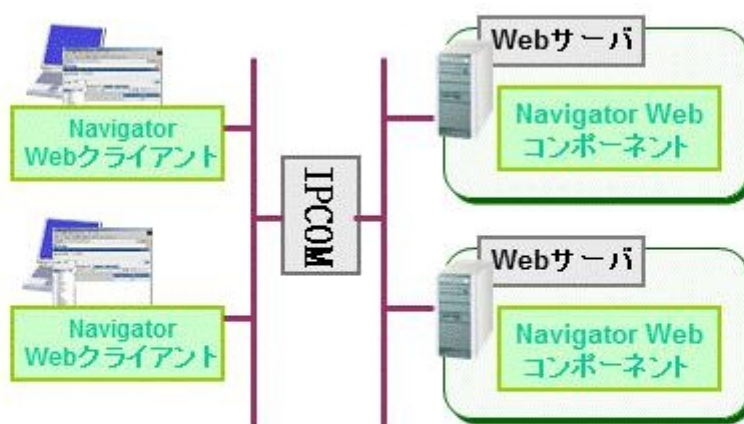
- ・セッション維持機能（一意性保証機能）

〔ネットワーク構成〕

Navigator Webコンポーネントの分散は、IPCOMをNavigator WebクライアントとNavigator Webコンポーネントの間に設置してください。

※共有機能を利用する場合は、Webコンポーネントの負荷分散システムは利用できません。

Navigator Webコンポーネントの分散



10. Internet Explorer 11を利用する場合

Internet Explorer 11については、デスクトップ用 Internet Explorerでの利用が可能です。

11. 仮想化運用について

Navigatorを仮想環境で運用する場合、以下の注意事項があります。詳細については、マニュアルをご参照ください。

- ・辞書の更新中に仮想マシンの切り替えを行った場合に、管理情報ファイルの修復が必要となる場合があります。

- ・仮想マシンのコピーを行う場合には、Navigatorの運用を停止した状態で実施する必要があります。

また、OSやデータベース、Webサーバなどの関連製品が仮想環境での運用に対応している必要があります。関連製品の仮想環境での運用については、各製品のマニュアルをご参照ください。

12. 前バージョン/レベルとの差異について

以下はサポート対象外になりました。

〔サーバ適応OS〕

- ・Red Hat Enterprise Linux 6
- ・Red Hat Enterprise Linux 7.8以前

- Red Hat Enterprise Linux 8.3以前

[クライアント適応OS]

なし

[対応ブラウザ]

なし

[データベース]

- Symfoware Server Standard Edition V11
- Symfoware Server Enterprise Edition V11
- Oracle Database Enterprise Edition 12c R2/18c
- Oracle Database Standard Edition 2 12c R2/18c

[アプリケーションサーバー]

- Interstage Application Server Standard-J Edition V11/V12
- Interstage Application Server Enterprise Edition V11/V12

[帳票製品連携]

- Interstage List Creator Workstation V9
- Interstage List Creator Standard Edition V9/V10
- Interstage List Creator Enterprise Edition V9/V10

13. Symfoware Server(Postgres)を利用する場合のSymfoware Serverのライセンスの購入方法について

Symfoware Server(Postgres)を利用する場合、Symfoware Serverのライセンスの購入方法について留意事項があります。

詳細については、弊社営業にお問い合わせください。

お客様向けURL

- ・ ソフトウェア：富士通（Interstage Navigator Server）

本商品の詳細は、以下のInterstage Navigator Serverホームページを参照してください。

<https://www.fujitsu.com/jp/software/interstage/navigator/>

- ・ ソフトウェア：富士通（ソフトウェアの一覧表（システム構成図）と各種対応状況）

価格/型名の一覧（システム構成図）を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/condition/configuration/>

- ・ ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）

「ライセンスについて、くわしく知る」の項で、富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポートポリシーなどの情報を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/>